



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(22)7207番

93.5.24 No. 3797

軍事評論家

多少の犠牲¹を認めれば次は無限の犠牲¹の強制

自衛隊即時撤兵の大運動

カンボジア内戦激化? PKO五原則は崩壊

日本は今、ドク沼の侵略戦争の拡大か、それとも戦争の歯車が回りはじめた今これにクサビを打ち込むかの瀬戸際に立っている。

カンボジアの内戦は激化し、PKO要員等日本人の死傷者があいついでいる。「PKO5原則」も完全に崩れている。にもかかわらず政府は撤兵を拒否し、ウソの上ぬりをもって逆に本格的な侵略と内戦への介入へと踏み込もうとしているのである。

政府の大ウソと居直りを、怒りをこめて弾劾し、即時撤兵のたかいを断固強めなければならぬ。

藤井治夫氏の警告

法令を改正することなしに、海外に出動した場合にも、出動自体が法令を変える契機になりうる。このケースは、出動した自衛隊が攻撃を受けて犠牲になつたときである。かならず、防衛態勢の不備を追求する声が高まり、なんらの制約なしに派兵する方向へと進むであろう。もう一つのケースは、出動した自衛隊が、めざましい手柄をたてたときである。その功績に見合った処遇を与えよ、という要求がつまり、法令の改悪につながる。いくだろう。まず海外派兵を行い、自衛隊員の生命を犠牲として返す刃で憲法体制を転覆させようという陰謀が日本支配層の深部に存在していることを見抜かなければならない。

政府の大ウソを許してはならない。

※PKO国会当時

「危ない所には出さない」(海部前首相)

「戦後処理だから危険はない」(渡辺前外相)

「停戦合意が破られれば独自の判断で撤退する」

5原則は崩れ内戦激化

「仕方がない」(宮沢首相)

「悲しみをこえて進」(河野官房長官)

「国際貢献のためには多少の犠牲は必要」

※「多少の犠牲」を認めれば、次は「無限の犠牲」の強制だ!

「政治改革」は社会党解体・保守三党づくり

「カネがかかる政治を変えるため」という全くのペテンを口実に、金権腐敗を居直り、わずかな支持率で多数議席の独占を狙う選挙制度を導入しようというのが今国会で審議されている「政治改革」法案である。

その焦点が小選挙区制である。金丸・佐川問題で自民党政治への不信と怒りは極限にきている。そこで、支持率がどんなに下つても一部の政党や財界が政権を握りつつけるために出てきたのが小選挙区制である。

連合や社会党を引き込み「政界再編↓保守二大政党」を狙うものであり、その中心こそ社会党解体、労働者階級の団結の最後の解体を意図するものである。「改革」の名による労働者階級の解体攻撃を断じて許してはならない。

攻撃のもう一つの重大な面は憲法九条の改悪に手を染めると

日本新党は、公然と「九条を変えなければ国際社会から取りのこされる」とまで主張している。まさに、カンボジア内戦に深々と介入しようという「野望」と一体のものとして今日の「政治改革」の攻撃が仕掛けられていることをはっきりと見てとらなければならぬ。

手おくれにならない前に……!

戦争の犠牲者はいつも労働者民衆だ

日本支配階級の野望

なぜ、政府はかくもカンボジアに固執するのか。

その目的は明らかである。カンボジアの「和平のため」を口実に「カネ」「モノ」そして自衛隊・軍隊を投入し、カンボジアでの政治的、軍事的な主導権を握りしめその「発言権」を確保し、それを足場にベトナム、ラオス、タイといった周辺諸国すべてを日本の勢力圏化に組入れられると思ひこんでいるからである。

この戦争の犠牲者は、どこでも、いつでも労働者、民衆なのだ。

決して、「いつかきた道」を歩んではならない。

カンボジア侵略粉碎・自衛隊即時撤兵
小選挙区制導入一改憲阻止

6.13
全国総決起集会

6月13日(日)正午/東京・宮下公園